

科目名	災害と地域2			ナンバリング	REC251	授業形態	講義
対象学年	3 年	開講時期	前期	科目分類	選択	単位数	2 単位
代表教員	柳澤孝主	担当教員					

授業の概要	災害と地域1の内容を踏まえた上で、この「災害と地域2」の講義では、東日本大震災が地域社会へと与えた甚大な影響ということを中心に検討していく。必要に応じて、阪神・淡路大震災や中越震災の事例を参考にしながら、災害と地域社会の問題を具体的に把握していく。さらに、復興の視点から、災害ボランティアの可能性、行政の対応事例等も、ビジュアル資料等を参考にして検討していき、私たち一人一人が災害と地域社会の問題へと、どのようにかわり臨んでいけるか、あるいはいきたいか、少しでも明確にしていくことを目的とする。						
到達目標	1、東日本大震災の影響を具体的に把握する。 2、災害ボランティア活動の実際の姿を見て、災害と地域社会の問題への可能性を探る。 3、私たち一人一人の問題として、災害と地域社会の問題へとコミットしていける力を養う。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	災害と地域1の単位が取得済みであることが望ましい。						
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】						
	○	1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
	○	2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。					
		3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。					
		4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。					
	○	5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわし関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
1. 東日本大震災の影響を概括的に説明できる。 2. 災害ボランティア活動の一般的な可能性を説明できる。 3. 災害と地域社会の問題へとどのようにコミットしていけるか説明できる。	1. 東日本大震災の影響を、阪神・淡路大震災や中越震災と関連けながら、その異同を説明できる。 2. 災害ボランティア活動の可能性を、その限界も含めた上で実践的に説明・展開できる準備ができている。 3. 災害と地域社会の問題へと、他人事としてではなく当事者として、どのようにコミットしていけるか、その可能性を具体的かつ・実践的に説明でき、展開への準備もできている。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)							
小テスト・授業内レポート	○	○			○		50%
宿題・授業外レポート	○	○	○				30%
授業態度・授業への参加			○	○		○	20%

課題、評価のフィードバック	1、毎回授業のリアクションペーパーの提出を求め、次回の授業にて振り返りとコメントを行う。 2、授業全体の課題の提示・作成を行い、希望する学生に自らの課題作成の採点状況のコメントを行う。
---------------	--

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	オリエンテーション	この講義の教育目標、評価方法、参考資料等の提示を把握した上で、講義の内容と方法等の輪郭を描けるようにする。	
	第2回	災害への地域社会の取り組み①	”ナホトカ号重油流出事件”の概要をビジュアル資料によって概観した上で、災害ボランティア活動の意義と限界について説明できる。	
	第3回	阪神淡路大震災と地域	阪神淡路大震災の被害状況をデータに基づいて把握する。	
	第4回	中越震災と地域	中越震災の概要と被害状況をビジュアル資料によって概観した上で、阪神・淡路大震災との取り組み方の違いを明確にしておく。避難所、仮設住宅、公営住宅の実態を説明できる。	
	第5回	東日本大震災と地域①(概念的理解)	東日本大震災の具体的記録に目を通し、概念的整理として、利便性とリスク、効率性重視の陥穽、都市化・過疎化の焦点化等の視点から、東日本大震災の影響を説明できる。	
	第6回	東日本大震災と地域②(宮城県の場合)	宮城県における東日本大震災の影響をビジュアル資料によって概観し、特に津波被害の実態からその影響を説明できる。	
	第7回	東日本大震災と地域③(岩手県の場合)	岩手県における東日本大震災の影響をビジュアル資料によって概観し、特に津波被害の実態からその影響を説明できる。宮城県の場合との異動も説明できる。	
	第8回	東日本大震災と地域④(福島県の場合)	福島県における東日本大震災の影響をビジュアル資料によって概観し、特に原発事故による被害の状況の特異性を説明できる。	
	第9回	東日本大震災と地域⑤(福島県浜通りの場合)	福島県浜通りにおける避難状況のデータ(ビジュアル資料を含む)に触れ、その実態を体験的視点も踏まえて説明できる。	
	第10回	東日本大震災と地域⑥(いわき市の場合)	東日本大震災による原発事故に伴う避難状況と、いわゆる地域間における ”あつれき問題”を検討し、自分なりの意見を表明できる。	
	第11回	東日本大震災と地域⑦(福島県に関連した事項)	いわゆる”自主避難”、”いじめ問題”に触れた記事や報道を検討し、自分なりの印象と考えを提示できる。	
	第12回	東日本大震災と地域⑧(宮城県)閑上地域の場合	宮城県閑上地域で実際に起きた問題をビジュアル資料によって概観し、復興支援のあり方を自分なりに説明できる。	
	第13回	災害への地域社会の取り組み②	平成27年9月に発生した関東・東北豪雨による鬼怒川氾濫によってもたらされた甚大な被害についてビジュアル資料で確認し、災害ボランティア活動の意義と限界を再検討する。	
	第14回	災害への地域社会の取り組み③	災害への地域社会の取り組みとして、どのようなことが有効かつ効果的に働くのか、これまでの講義の中からヒントになり得るものをリストアップして、考察を試みる。	
	第15回	課題の説明と作成	前回の考察を参照しながら、これまでの講義で学んできたことを概観し、特に自分にとって興味深かった項目を挙げ、自分自身の課題として具体的に説明できる。	
	試験	定期試験は実施しない。		
授業の進め方		災害と地域社会の問題をビジュアル資料を各種データを参照しながら進めていく。		
授業外学習の指示		授業の事前学習としては、次回の授業で扱う問題に関するデータに一通り触れておくこと。その際見出した疑問点や問題点をリストアップしておく。事後学習において、事前にリストアップしておいた問題点や疑問点をチェックする。不明な点は担当教員に質問する。 (授業外学習時間: 毎週 90 分)		

教科書	教科書は使用しない。
参考書	授業の内容に応じて適宜指示する。
参考URLなど	復興庁ホームページ http://www.reconstruction.go.jp 福島県庁ホームページ http://pref.fukushima.lg.jp いわき市役所ホームページ http://www.city.iwaki.fukushima.jp
その他	